

こちら特報部

コロナ禍に紛れ…進むトリチウム水放出案

回復途上



処理水の海洋放出に反対する要請書を読み上げる佐藤和良共同代表者。福島市で

福島
の漁業
またも逆風

東京電力福島第一原発でたまり続ける放射性物質トリチウムを含んだ処理水が、原発事故の余波から立ち直ろうとしている福島の漁業に追い打ちをかけようとしている。政府の小委員会は処理水の処分を巡り、海や大気への放出を提言したが、農林水産関係者や住民は反対。それでも国は新型コロナウイルス問題に乗じるかのように住民との対話を避け、地元自治体や関係団体のトップのみに「御意見を伺う場」を開き、処分方針の決定に向けて着々と動いている。

(中沢佳子)

「被災県民の代表として、国に対して海洋放出をやめ、陸上保管での対策をとるよう求めてほしい」
四月中旬、開け放った窓から風が吹き込むたび、寒さが増す福島県庁の一室で、市民グループ「これ以上上海を汚すな市民会議」の佐藤和良共同代表が、内堀雅雄県知事への要請書を手

に、伊藤繁・県原子力安全対策課長へ訴えた。佐藤氏は「県民や農林水産関係者は明確に反対だ。態度をあいまいにせず、国にモノを言っしてほしい」とマスク越しに畳み掛ける。傍らのメンバーも「新型コロナウイルスの非常事態のごとき紛れで、国に決断させないで」と求める。
しかし、伊藤課長の口調は硬かった。「県としては、国が責任を持って判断してもらいたいと思う。国にも関係者の意見を聴き、慎重に判断してほしい」と言い続けている。風評被害への具体的な対策も示してほ



外食自粛で値崩れ + 再び風評被害不安

し、農林水産関連の三団体は放出案にはっきり反対を掲げた。その一つ、県漁業協同組合連合会の野崎哲会長は「国からの出荷制限がすべて解除され、増産へ舵を切る矢先。それに、海には県境がない。福島の漁業者だけで判断できない。全漁業者の意見を聞いてほしい」と強く反発した。福島県沖の漁業は原発事故に伴って国が出荷制限をかけ、海域や魚種を絞った試験操業が続いてきた。出荷制限の対象魚種は徐々に解除され、今年二月に全魚種解除にこぎ着けたばかりだ。

「震災後、水揚げ量は激減し、昨年でも約三千六百トと震災前の14%ほど。しかも、魚の流通に欠かせない地元の仲買業者も廃業して半減。事業を縮小した業者もいる」。小名浜機船底曳網漁業協同組合(福島県いわき市)の柳内孝之理事は、水揚げできるようになったとしても、福島の魚が市場で競争力を取り戻すには難しさが残っていると語る。
「これまで首都圏で福島の魚のPRにも取り組んできた。以前に比べれば、風評被害は和らぎつつあると思う。でも、仲買業者の力が落ちている。さらに、震災を機に東北から他の地域へ仕入れ先を変えた取引先を戻すのは、簡単じゃないんだ」
折しも、新型コロナウイルスの感染拡大で高級魚を中心に魚介類の値崩れが目立つ。豊洲市場の週間市況によると、宴会や外食自粛の影響で飲食店などの需要が減り、卸売価格は二月下旬ごろから徐々に下降。緊急事態宣言が出た後の四月第二週(十七〜十六日)は、水産物全体の一日平均取扱数量が千百トと前年同期の80%にとどまった。

逆風下で原発事故の余波から立ち直ろうとしている福島の漁業に、処理水問題は追い打ちをかけかねない。柳内さんも不安にさいなまれる。「福島の漁業は、ただでさえ厳しい競争をしていかなければならない。なのに放射能というマイナスまで背負うことにな

いる」「女性蔑視だ」などと批判が集中した。
岡村さんは同三十日のAN Nで、「たぐさんの人たち、
「ちゃんに叱られる！」の降板と謝罪を求める署名などの呼びかけが展開され、批判は収まっていない。
クに行き着くにもいろんな理由があるが、岡村さんは、貧困が原因で選択肢がなく選ぶ人を自分の楽しみに結びつけ

過度な
い詰めるのはいじめと同じ」と指摘した。
ラジオリポーター出身の放送作家山田美保子氏は「私は

ストレ
んいそのは事またささか、発言に乗じてたたきつづせといわんばかりの熱狂。ゆがんだ正義のよつで怖い」

「ニュース」の追跡



性別や国に
尊敬し合う
非常に大切



人類のため

こちら特報部



地元の憂いをよそに、国は放出決定に向かうかのよう... 四月六日に開かれた初回の意見聴取会は、経済産業省や復興庁、環境省の副大臣などが福島に向向いた...

①処理水に関する意見聴取会の延期などについて申し入れを受け経産省の担当者ら(中央2人) = 東京・永田町の衆院第1議員会館で ②巨大なタンクが並ぶ東京電力福島第一原発 = 2月、本社へ「おおづる」から

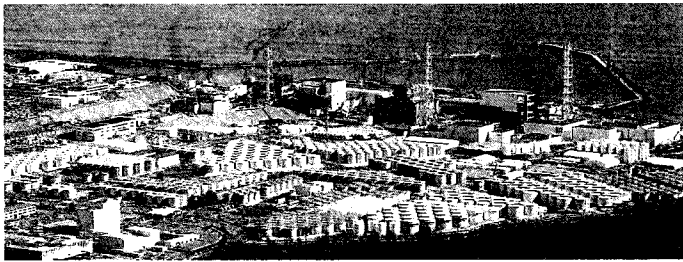
反対の声に向き合わず

「対策」の下

届かない。なぜこの非常時に開催しなくてはならないのか。原発事故の刑事責任を追及してきた「福島原発告訴団」団長の武藤類子さんは、コロナ禍で議論が尽くされないまま、なし崩しで決まりかねないと危機感を募らせる...

政府の小委員会が二〇一八年八月に福島や東京の三カ所で開いた公聴会では、市民など計四十四人が意見を語り、放出に反対する声が多数出ていた。武藤さんは「公聴会の意見だけでは少ないし、今回の聴取会で処理水に危険はない前提で話されていたのもおかし...

対話なき「御意見伺う場」 住民反発「儀式」



結論を出さずとしている。聴取会は「関係者の意見は聴いた」という既成事実の積み上げを促したいだけ。国会での議論も尽くしてない」と批判する。

市民会議は国内外約三百二十団体とともに、首相や経産相などに対し、陸上保管の継続や国民的議論のための全国公聴会開催を求めると共同声明文をまとめた。佐藤氏は「本当は東京に行つて訴えたい。でも外出自粛が続く今は、行けない。署名活動もままならず、インターネットも活用して集めるしかない」とコロナ問題で活動に制約がある現状を嘆く。

なぜ今強行 終息後に議論尽くせ

で募り、郵送や電子メール、FAX、電子政府の総合窓口で十五日まで受け付けるという。次の聴取会は十一日の予定。会の様子をネット中継で見えた柳内さんは「国側はこちらの言うことをただ聴くだけ。結論ありきなんだろっね」とつぶやく。福島の人は、原発事故でさまざまなものを奪われてきた。そして今、放出への不安の声に向き合ってももらえない。柳内さんが深くため息をつく。こんなにも反対や慎重さを求める声がある。それでも国は本気で放出を強行するのだろうか

「タンク」を

通常の対話が難しいコロナ禍の最中、意見を聴いたこととして施策を進めても、それは無効ではないのか。「どさくさ紛れ」「なし崩し」との批判はもっともだ。国や自治体が今急ぐべきなのは、漁業者など苦境にあえぐ人々を救うこと。力の入れどころが間違っている。(本)

2020.5.11

話題の発掘



いつもドラゴンズと、試合がある日もない日も いっしょに楽しもう。そんな思いをこめたグッズが勢揃い。中日新聞社直営のドラゴンズショップです。

©中日ドラゴンズ

※インターネットからのご注文をお願いします。中日新聞社の事業所では販売しておりません ※別途送料が必要です